学　校　通　信

平成２７年度　第　４　号
平成２７年　７月　　１日
練馬区立開進第三小学校
校　長　土　屋　信　行

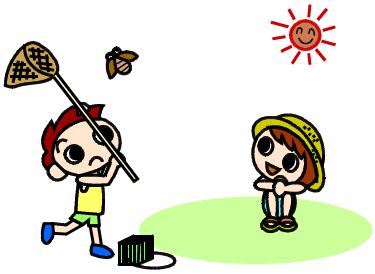
人　と　か　か　わ　る

校長　土屋　信行

人が、仕事や学校、様々な活動等を通して他者とのかかわりをもつとき、必ずそこには先輩、同輩、後輩等の縦や横の関係が生じます。そして、その関係は、その人にとって、すべて好ましく思えるものであるとは限りません。中には相性の悪い人との出会いもあるでしょう。

それでも大概の人は、そのかかわりの中で他者と共に過ごし、指導をされたり刺激を受けたりするうちに、楽しさを味わったり新たな発見をしたりします。そして、それを自分の考え方や生き方に生かし(反面教師的なものも含めて)、改めて自己を確立していこうとすることが多いのではないでしょうか。つまり、我慢や努力によって、自ら人間関係を築き、自己を磨いていくわけです。

しかし、私たちの周りにはあまり他者とのかかわりをもとうとしない人もいます。このようなタイプの人は、同じ場にいる相手との違いに気付いたり、不満があったりすると、必要最小限のことでしか他者とかかわらないようにすることが多いようです。すると、その人の人間関係は、ごくわずかなつながりだけになり、ものの見方や考え方が狭くなりがちになることは否めません。新聞や本を読んだり、コンピュータによって多くの情報を得たり、知人を増やしたりしても、本当の意味での人間関係だけは豊かに広げることはできません。

よく、「苦あれば楽あり、楽あれば苦あり」と言われます。これは「苦しみの後に楽しみが来る、楽しみの後に苦しみが来る」の意味で使われることが多いのですが、私は、「苦の中にも楽があり、楽の中にも苦がある」という捉え方も大切だと思っています。人とのかかわりに関して言えば、「好ましくないかかわりの中にも、探せば自分に生かせることはある」また、「好ましいかかわりの中にも、避けて通りたい付き合いもある」とでも言えるでしょうか。これらのバランスをとりながら他者とかかわっていくことは、人が成長していく上で欠かせないことだと思います。

子供たちには、常に同じ人、あるいは自分の思い通りに動いてくれる人とだけかかわるようになってほしくはありません。マイナスの出会いも付き合いも、すべて自分の人間性を磨く上での大切な勉強の機会なのです。これからの長い人生、いろいろな場面で多くの人とかかわり、豊かな人間関係の中で社会性を身に付け、よりよい生き方を目指してほしいと強く願っています。